

地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の**先進的な活動**を取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

NPO法人メタノイア 東京都足立区

◆目指すのは外国にルーツのある子どもたちを誰一人取り残さず、社会につなぐこと。 そのための現場づくりとは？

今回は、東京都足立区を拠点に外国にルーツのある子どもの教育支援を行っているNPO法人メタノイア代表理事の山田拓路さんよりお話を伺いました。現在、保育士、日本語教師、行政書士の顔をもっている山田さん。外国にルーツのある子どもたちとの関わりは2008年に始まりました。東海地方でフィリピンにルーツをもつ子どもの学校の運営に携わりつつ、保育所の新設にも取り組んできました。しかし、子どもたちが脆弱な立場に置かれ、差別を受ける社会構造が依然として変わらないことに希望を失いかけてしまいます。



＜絵本の読み聞かせに耳を傾けるウクライナ難民の幼児＞

転機はカナダ留学。多様な人種が共に暮らし、人権が尊重され、差別に対して市民は連帯して声を上げる日本と異なる社会の在り方に勇気づけられたと言います。

帰国後は東京のNPOで働きながら準備を進め、2021年4月にメタノイアを設立しました。メタノイアでは現在、外国にルーツのある子どもたちの日本語教室やプレスクール、母語教室等の運営を行っています。公的な支援の枠組みから漏れてしまう子どもたちをも取り残さずつながりを持ち、孤立させないことを目指しています。主旨に賛同して集まった日本語教育等に専門性をもつ15人の有給スタッフ（2022年8月時点）や熱心なボランティアの方々と共に活動を行っています。

活動の主軸は足立区の子どもの日本語教室です。希望者が多く、全員を受け入れられない状態が続いているそうです。また、今年度に入り、クルド人難民の教育を行ってきた「クルド日本語教室」と連携して子どもの日本語教室を共催したり、ウクライナからの避難者にオンライン日本語レッスンを提供したりと、難民の背景をもつ方々への支援にも力を入れています。できるだけ多くの外国ルーツの方々とつながるために、一つひとつの活動を維持し、場を増やしていくこともメタノイアの果たす役割の一つと考えています。更に足立区内のNPO・企業・行政が一体となった外国ルーツの子ども支援者ネットワーク「まるかるネット（旧称：コネクトリンク勉強会 海外ルーツの子ども支援分科会）」の世話役団体としてキッズドア、YSCグローバル・スクール、カタリバ、足立区役所や地元企業など支援に携わる多様な組織間のリソース共有や連携を促すネットワークづくりにも貢献しています。

日本に暮らす外国人の増加もあり支援のニーズは高まり続けていますが、一方で支援する側のマンパワーや資金は限られています。現在日本語教室の参加費は無料ですが、支払い能力のある家庭は有料にし、より脆弱性の高い子どもたちのための活動資金に充てる仕組みづくり等も検討中です。

最も脆弱な立場にある子どもたちの支援は、精神的にも資金的にも決して容易では無いはずですが、困難な道を敢えて突き進む山田さんからは、子どもたちを誰一人取り残したくない、という強い使命感が伝わってきました。

ぜひ、ウェブサイトをご覧ください、メタノイアの活動を応援してください。

NPO法人メタノイア ウェブサイト <https://metanoia.or.jp/>



～ 市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために～

市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします！ ♪



地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の**先進的な活動**を取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

(一社) やさしいコミュニケーション協会

東京都豊島区

◆ 本当にやさしいコミュニケーションとは何か？を追求する

やさしいコミュニケーションの普及に取り組む(一社)やさしいコミュニケーション協会 代表理事の黒田 友子さんにお話を伺いました。同団体の設立は、2019年5月です。

黒田さんは中学生の時のオーストラリア交換留学をきっかけに、日本語教師を目指すことにしました。日本語を学びたい外国人がいることを知り、英語も生かせる職であることに魅力を感じたからです。企業勤務などを経て2017年からフリーランスの日本語教師として活動を開始し、「やさしい日本語」に出会います。

「日本人に日本語で話しかけても英語で返ってくる、日本語を話す機会がない、日本人の友達ができないと悩む学習者がいる」という話を複数のフリーランス日本語教師の仲間から聞きました。ある時は、黒田さんがお子さんと来院した小児科で外国人のお母さんが問診票記入に困っている場に遭遇し、日本語でサポートしたこともありました。「外国人＝英語」の固定観念が根強く、日本に暮らす外国人が日本語を話せる可能性を伝える日本語教師が多くないことに気づき、「やさしい日本語」の普及を目指すことにしました。

前職で医療関連の企業に勤務してから、医療情報を中心に、優先度が高いと思われる情報をやさしい日本語へ翻訳し、発信者に送るなど草の根活動から始めました。受け入れられないこともありましたが、麻疹の流行の際、国立感染症研究所が発信する英語の注意喚起をやさしい日本語に翻訳して送ったところ、ウェブサイトに掲載されるなど徐々に変化が見えてきました。ある日SNSを通じて感染症対策コンサルタントの堀 成美さんから「医療従事者へのやさしい日本語研修プログラムを一緒につくってもらえないか」との依頼が舞い込みます。研修会を無事終えた後も「是非法人化して活動を継続した方がよい」との助言を受け今に繋がっています。

現在はオンデマンドのやさしい日本語研修プログラムなどを開発する他、医療関係者対象の講座や研修を行っています。また、大学への研究協力や、KONICA MINOLTA社の多言語通訳サービス「KOTOBAL」のやさしい日本語の語彙登録に協力し、やさしい日本語機能が搭載されました。今後は、医療職対象のやさしい日本語普及に加えて、やさしい日本語普及活動を積極的に行う人材育成や、やさしい日本語の基準づくりも目指しています。

団体の理念は、「ことばとデザインでコミュニケーションをもっとスムーズに」。耳と目両方の情報を分かりやすくする「やさしいコミュニケーション」を目指しています。やさしい日本語だけでなく、やさしい英語、更に、文字情報以外の在り方、わかりやすさも大切と考えています。海外のeasy readなどは1枚に情報を詰め込むのではなく、ページ当たりの情報量を減らし、イラストを有効活用しながら伝わりやすさが優先されているとして例示くださいました。

言語としてのやさしい日本語の普及のみならず、やさしいコミュニケーションを普及するという黒田さんの視点はこれからもますます重要になるのではないのでしょうか？

(一社) やさしいコミュニケーション協会ウェブサイト：<https://yasacommunity.or.jp/>



<外国にルーツをもつ子どものためのやさしい日本語講座
千葉県松戸市にて(2022年9月) >



～ 市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために～

市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします！

